

# 「大坂の史跡を訪ねて」

連載 7 回目

～大坂城周辺～その2

おさ 長 谷 吉 治

## ① 英照皇太后 昭憲皇太后 行啓之所 大阪市中央区本町橋

☞ 前回ご紹介した五代友厚・土居通夫・稲畑勝太郎の3人の銅像から50メートルぐらいいか離れていないマイドームおおさかの前に、『英照皇太后 昭憲皇太后 行啓之所』という比較的大きな石碑が建っています。

明治23年4月に昭憲皇太后が、また明治24年11月に英照皇太后が、この地にあった大阪博物場を行啓されています。

昭憲皇太后行啓の際、木造瓦葺2階建ての聖堂である『錦繡堂』が新築されています。

時の大阪府知事 西村捨三は、神聖である由緒ある建物は永久に保存すべきである。と「錦繡堂記」に記しています。

さて、英照皇太后という人は、幕末期の孝明天皇の女御でした。また、昭憲皇太后は明治天皇の皇后だった人です。昭憲皇太后は明治期には女子教育、慈善事業に関心を持たれ東京女学校への行啓を始めとし、東京慈恵医院や日本赤十字社の発展に貢献されました。

明治22年には憲法発布式典に明治天皇と共に参列されその翌年に大阪の地を行啓されています。

墓は明治天皇陵のある伏見桃山御陵の東にある桃山東陵にあります。

英照皇太后は、京都の泉涌寺(剱区)に葬られています。

さて、昭憲皇太后が坂本龍馬と少しゆかりがあります。もちろん、2人は会ったことはありません。坂本龍馬が慶応3年11月この世を去ってから38年目の明治37年、日露戦争が勃発しようとしていました。そのような頃、昭憲皇太后の「霊夢」事件がありました。

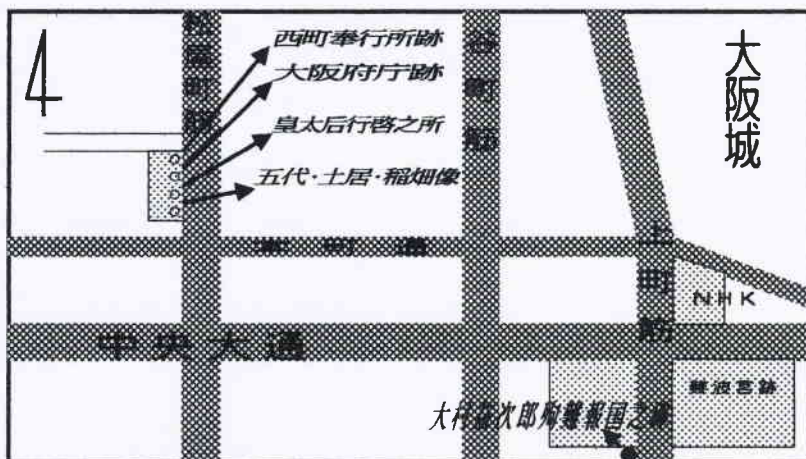
枕元に坂本龍馬が現れ、「この度の海戦は、必ず皇国の勝利です。」と言って消えたそうです。真実味に欠ける話ですが、これは当時第三勢力となっていた土佐藩(出身者)の巻き返し策という説もあります。この内容は、京都東山霊山にある坂本龍馬の墓の傍らにある『贈正四位坂本龍馬君忠魂碑』(寺田屋伊助建立)に彫記されています。



行啓記念碑の古写真



霊山にある贈正四位坂本龍馬忠魂碑



## ②大阪府庁跡 大阪市中央区本町橋

☞①の行啓記念碑から30メートル程北側、同じくマイドームおおさかの前に『明治天皇聖蹟碑』(大阪府庁跡)がありすぐその隣に『西町奉行所跡』の石碑が建っています。  
 大阪府庁は、慶応4年(1868)1月22日に「津村別院」いわゆる「北御堂」に大阪鎮台が置かれた事が始まりです。  
 この鎮台は、行政、司法、軍事を兼ねていましたが、僅か5日後に「大阪裁判所」と改称されました。そして2月に入るとすぐ西町奉行所があったこの地に移されました。  
 そして5月に「大阪府庁」と改称されています。  
 この当時の顔ぶれをご紹介しますと



初代大阪府知事 醍醐 大納言 忠順(ただま)



副知事	伊達宗城(外国事務総管を兼ねる)-宇和島-
参議	小松帯刀-薩-
参議	後藤象二郎-土佐-
参議	木戸準一郎(孝允)-長州-
権判事	陸奥陽之助(宗光)-海軍隊-
権判事	中井弘蔵-薩-

※2代目知事は後藤象二郎です。

その後、明治7年江之子島(大阪市西区)に移転しています。(ここにも石碑が建っています)

## ③西町奉行所跡(石碑が2か所あり) 大阪市中央区本町橋

☞大阪府庁跡のすぐ隣に写真㉑の石碑が建っています。大坂には東町奉行所と西町奉行所がありました。江戸の北町奉行所、南町奉行所と同じく1カ月交代で町の取り締まりを行っていました。この西町奉行所跡に何故か石碑が2つあります。ひとつは、写真㉑。これは、大正期に建てられています。もうひとつは、㉒の石碑から北に向き一方通行の道をやや西に入ったところ(同じくマイドームおおさかに隣接)写真㉓の石碑が建っています。この石碑は昭和42年に建てられた比較的新しい碑です。

碑文には『西町奉行所は享保九年(1724)からこの地に置かれ、庶民との関係が深かった。明治時代には、市内随一の楽園 大阪博物館がここに設けられた』と刻まれています。

㉑ 大正期に建立の碑



㉒ 昭和期に建立の碑



④大村益次郎ゆかりの地(その1) 大阪市中央区法門坂2丁目(国立大阪病院前)

次は「マイドームおおさか」から離れます。五代・土居・稲畑三人の像を右に見ながら、中央大通りまで出ます。中央大通りを東に(御4丁目)行きます。難波宮跡・NHK大阪の手前に国立大阪病院がありますが、この病院の南西端に他の史跡とは比較にならないぐらいの大きな碑があります。この碑は「兵部大輔大村益次郎殉難報国之碑」です。



大村益次郎は文政7年(1824)、周防国吉敷郡鑄銭司村字大村の医者 村田孝益の子として生まれました。

弘化3年(1846)23歳の時、大坂に出てきて、緒方洪庵の適塾に入門しました。(その時の寓居としていた場所 西区の土佐堀通り沿いに石碑があります)

そして3年後の嘉永2年、早くも塾頭を務めています。

その年には勝海舟ゆかりの杉 亨二が。次の年には福井藩橋本左内が入門しています。

27歳で帰郷し医業を開始しましたが、宇和島藩に招かれ、藩主伊達宗城の要望で蒸気船を建造します。安政3年(1856)、今度は幕府から招かれ、蕃書調所(洋書を翻訳する役所)に出仕します。併せて講武所(幕府の学校)の教授も務めます。2年後、長州藩 桂小五郎の斡旋により長州藩の藩校教授となります。その後、井上聞多(馨)、伊藤俊輔(博文)らをイギリス留学の手配をしたりします。



大村益次郎像

幕府の長州征伐の時は、参謀として指揮をとり勝利に導きます。

新政府樹立後は、大参謀 西郷隆盛の下で軍監兼参謀を務め、上野の彰義隊との戦いを1日で終わらせてしまいます。

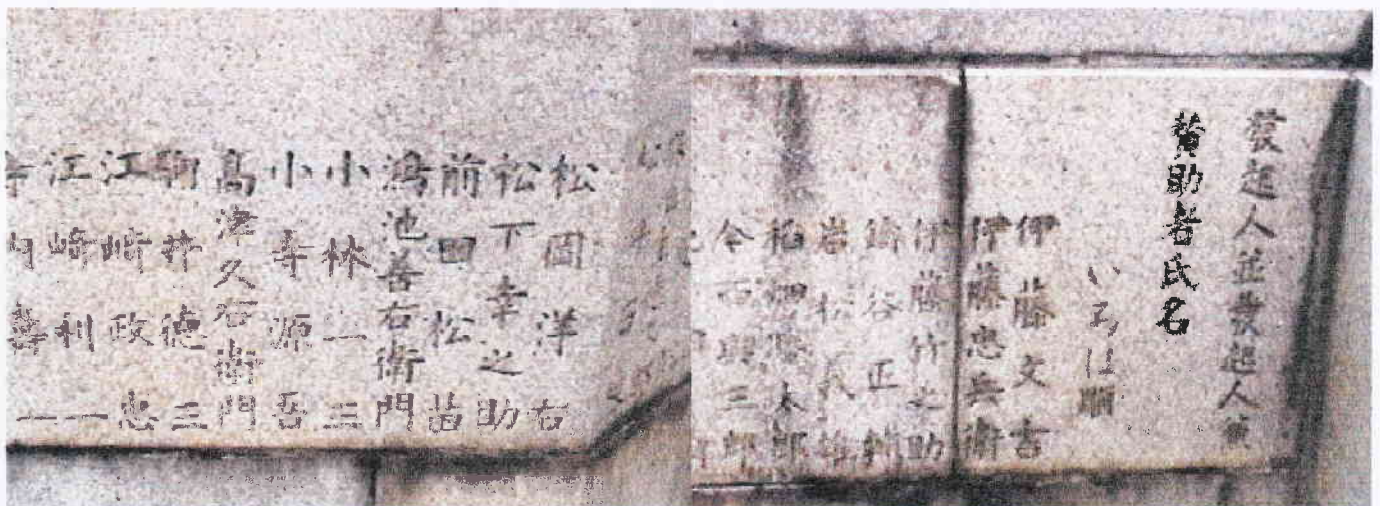
明治元年、維新に散った人たちを祀る招魂社を九段に創建。今の靖国神社です。明治2年9月4日、京都の三条木屋町の定宿で刺客に襲われ、瀕死の重傷を負いました。

以前連載4回目(会報74号)で紹介済の「浪華仮病院」がこの地に移った大坂病院に治療のため運ばれました。敗血症を併発し右足の切断手術を受けましたが、甲斐なく11月5日この地で永眠しました。46歳でした。

碑は昭和16年3月、大村卿遺徳顕彰会により建立されています。

ここに記されている賛助者は、後世に名を残している人たちばかりです。(写真参照)

墓は、故郷の鑄銭司村に。切断した右足は、大村益次郎の遺志で、師である緒方洪庵の墓がある龍海寺(大阪市北区同心1丁目)に、洪庵の墓の横に埋められました。龍海寺や寓居地跡は、いずれ「その2」「その3」で詳しくご紹介する予定です。次回以降もご期待ください。



松下幸之助 稲畑勝太郎 松岡洋右 鴻池善右衛門 小林一三 伊藤忠兵衛 等の名が見えます。